

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：グローバルキッズ市が尾園	種別：認可保育所
代表者氏名：益子 恵	定員（利用人数）：60名（利用者60名）
所在地：〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町1063-4 エトモ市が尾4F	
TEL：045-973-3085	
ホームページ：https://www.gkids.co.jp/facilities/nursery_066.html	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社グローバルキッズ	
職員数	常勤職員： 15名 非常勤職員： 8名
専門職員	（専門職の名称） 名 調理師：2名
	保育士：常勤11名、非常勤7名
	栄養士：1名
施設・設備の概要	（居室数）保育室（6） 調理室 事務室 更衣室兼休憩室
	（設備等）幼児用トイレ（2） 多目的トイレ 沐浴室 シャワー室 テラス

③理念・基本方針

企業理念：

子ども達の未来のために

保育理念：

豊かに「生きる力」を育てる

保育目標：

- ・遊びこんで何に対しても楽しめる子
- ・自分の気持ちを素直に表現できる心豊かな子
- ・いろんなことに感謝の気持ちを持てる子

保育方針：

- ・子ども一人一人に寄り添った保育
- ・安心、安全に笑顔で過ごせる環境づくり

④施設・事業所の特徴的な取組

毎日の保育内容をドキュメンテーションを通して保護者へ共有している。

アプリ(コドモン)で連絡帳やお知らせ等を行っている。

アプリ(コドモン)の連絡で保護者の相談・意見の把握をしている。

行事は全て年長児中心に話し合いで決めている。

4・5歳児は月1回の外部講師による体育指導を行っている。

午前・午後の2回、散歩をしている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年6月9日（契約日）～ 令和2年11月10日・17日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（前回：平成29年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)より質の高い保育の実現を旨とした取り組み

園では、子どもが夢中になって遊んでいる様子や活動に集中している様子を撮影し、写真と文章で記録を積み重ねていく「ドキュメンテーション保育」を取り入れています。保育の実践が可視化して、職員間の共通認識を深めながら、日々の保育の振り返りを行っています。ドキュメンテーションの記録を通して、各クラスの保育内容や子どもたちの様子を共有し、園全体でより質の高い保育の実践を旨として取り組んでいます。

2)子どもの主体性を大切にした保育の実践

各クラスには、年齢や発達に応じて様々なおもちゃを準備し、子どもたちの自由な発想を引き出せるよう、ごっこ遊びに集中できるコーナーづくりを工夫しています。また、自由に好きな絵本を選んでゆったりと読むことのできる絵本コーナーを充実させるなど、環境設定を行っています。幼児クラスでは、運動会のテーマを子どもたちが話し合いながら決めるなど子どもたちの主体性を大切にした保育の実践に取り組んでいます。

3)保護者ととも子ども育ちを見守る取り組み

日々の保育の様子を保護者と職員は共有しています。情報の共有化により、保育士の子ども姿を見る視点や観察力が育ち、子どもの探求心や学びを知ることにつながっています。また子どもの遊びや興味を保護者に発信することで、子ども育ちの過程を共有化し、園と保護者との連携につながっています。

◇改善を求められる点

1)課題の改善に向けた中長期計画の作成

法人の中長期的なビジョン「2030トリプルトラスト」で方向性を示しています。園では、中長期的な見通しを持って職員の育成や地域支援などの取り組みを進めていますが、園としての中長期計画の明文化には至っていません。今後は、経営課題や問題点の解決・改善に向けて具体的な成果などを設定し、園としての中長期の事業計画と収支計画を策定されることが期待されます。

2)職員による計画作成と保護者コミュニケーション

保育の「全体的な計画」は園長が作成して、職員も参加しています。保育士の資質向上と保護者の理解に向けて、保育に関する計画や施策に職員が参画することにより保育園の更なる向上が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園から2回目の第三者評価を受審させていただきました。

この度は、アンケートにご協力いただきました保護者の皆様、親身になって視てくれた評価機関の皆様、園運営について振り返る機会をいただきましたこと感謝いたします。

ドキュメンテーション保育を取り入れるようになって3年の月日が経ち、職員だけでなく、子どもたちや保護者の皆様にもしっかりと根付いてきたように感じます。視覚的に保育を共有できたことは、コロナ禍において、園内の様子を理解していただく大事なツールにもなってくれていると感じております。

前回の第三者評価受審で課題にもなっておりました、地域に開かれた園づくりに関しては、園内に地域担当を設け、月1回の園内開放や看護師や調理員による育児講座を行って参りました。お陰様で多い時には20組もの地域の方が来園してくださることもありました。しかしながら、現在コロナウイルスの影響で外部の方の入室が制限されており、見通しが立っていない状況となっております。コロナウイルスが収束した際は改めて地域に開かれた園づくりを行って参りたいと思っております。

今回の受審では中長期的な計画の明文化と職員への周知が課題となりました。当園は若い職員が多く開園から経験値を積み重ねた職員が多数存在します。現在、概ね5年程の経験年数の職員が多くを占め、園の運営にもしっかりと意見を述べてくれるまでになっております。今年度始めた1・2歳児を「こあらチーム、うさぎチーム、ばんだチーム」に分けて運営する案も職員から提案されました。来年度から始まる異年齢チームでの生活も、職員が積極的に意見を出し合って決めてくれています。今後、職員と3年、5年を見据えた運営計画を基に運営していきたいと考えております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり